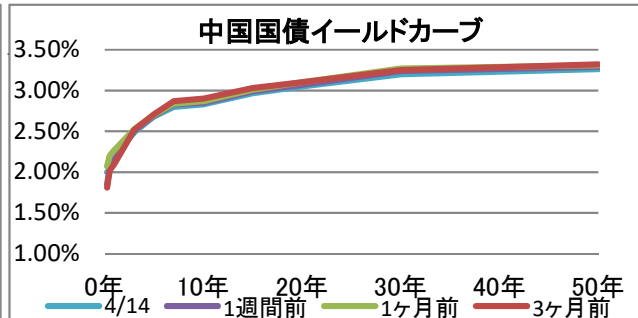
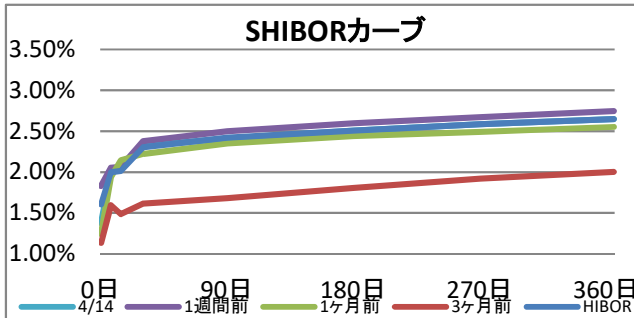


基準レート		2023/4/14	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	6.8606	-0.0232
	JPY/CNY	5.1759	-0.0494
SHIBOR	3M	2.4220%	+0.0120%
国債利回り	10年	2.83%	-0.02%
上海総合指数		3,338.15	+10.50



(1) 概況

国際金融市場では、欧米でのインフレ指標の高止まりと金融政策に関する思惑から長期金利が上昇する中、株式市場も上値は重いものの上昇する展開となり、外為市場では金融引締め停止が視野に入るドルが売られやすい展開となった。

中国金融市場では、予想を下回るインフレ指標と貿易統計における輸入減少を受けて国内景気への先行き懸念等から株安となっていたが、台湾を巡る米中摩擦の深刻化が回避される中、利下げ期待も台頭して週後半には債券利回りが若干低下し、株式にも買戻しが入り、外為市場ではドル安を背景に元高となっている。

中国では、習主席が訪問先の広東省で改革開放の先頭に立つ重要な地域と位置付け、改革深化や高いレベルの対外開放拡大方針を示し、李強総理は、ユニコーン企業の科学技術イノベーション推進力の重要性を、何立峰副総理は国際消費財博覧会で、消費回復への注力や外資の市場参入に対する更なる開放等を強調。中国政府は、生成型AIの規制案のパブコメを公表し、法律遵守や政権転覆・国家分裂を煽る内容の禁止等を規定し、國務院は、上場企業の独立董事制度改革に関する意見を、証監会は独立董事管理法のパブコメを公表。易人民銀行総裁はG20会議で、本年の経済成長率が5%前後に達するとの見方を示し、人民銀行金融政策委員会は、景気回復は盤石ではなく、的を絞った有力かつ穏健な金融政策を推進する方針を示した。証監会等はIPO登録制度による初上場式典を開催し、中国金融先物取引所は国債先物収益指数系列の正式な公表を開始。外交面では、訪中したブラジル大統領が中国首脳との会談で双方の貿易と自国通貨決済拡大の方針を確認し、台湾總統の訪米を巡る米中対立は、中国の軍事演習の終了後一部制裁等があるものの、一段の悪化は回避されている。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペ期日290億元に対して、リバースオペ540億元を実施し、ネットで250億元を供給。

(3) 主な経済指標

- ・CPI (3月) は、前年比+0.7% (2月、同+1.0%) と2か月連続で伸びを縮小。旅行は前年比+5.3%と需要回復を受けて伸びを高めたが、原油安を受けてガソリンなど交通燃焼が前年割れに転じたほか、耐久消費財やサービスも伸び悩んだ。
- ・PPI (3月) は、前年比-2.5% (2月、同-1.4%) とマイナス幅を拡大。春節後の消費一服や自動車販売不振を背景に消費財価格が前年比プラス幅を縮小させたほか、生産財価格が、国際商品市況や不動産市場等低迷による素材価格下落等を映じて、マイナス幅を拡大した。

② 資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	1.6050%	1.7500%	1.4000%	
1W	2.0000%	2.6000%	1.7000%	
2W	2.0150%	2.3000%	2.5000%	1.9000%
1M	2.3060%	2.4000%	3.1500%	2.3200%
3M	2.4220%	2.8500%	2.5500%	2.4400%
6M	2.5080%	2.8000%		2.5100%
9M	2.5880%	2.7500%		2.6200%
12M	2.6500%	3.6000%		2.6400%

足下の資金余剰の状況は続いているものの、ターム物金利水準は高止まっており、1ヶ月が2.5%前後で取引されている以外、出合いは限定的。

NCDの金利水準も概ね変化なく、狭いレンジ内での取引が続いている。ターム物の金利水準は、1ヶ月が2.3%台前半、3ヶ月が2.4%台前半、6ヶ月が2.5%前後、1年が2.6%台前半で取引されている。

(2) 米ドル資金 (本土内)

	BID	OFFER
ON	4.85%	4.86%
1W	4.95%	4.98%
1M	5.18%	5.25%
3M	5.35%	5.40%
6M	5.35%	5.40%
12M	5.35%	5.40%

米CPIの伸びの鈍化により金融引締め停止への期待が更に高まったものの、FOMC議事要旨やFRB高官のタカ派発言もあって様子見姿勢に変化はなく、ターム物の出合いは引き続き限定的。ターム物の金利水準は、1ヶ月は5.2%前後、3ヶ月は5.35%前後での取り気配が続いている。

③人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	2.00%		2.36%	2.53%	2.70%
6M	2.02%		2.46%	2.62%	2.79%
1Y	2.21%	2.26%	2.64%	2.74%	2.93%
3Y	2.49%	2.66%	2.83%	3.04%	3.62%
5Y	2.68%	2.82%	2.95%	3.22%	3.94%
10Y	2.83%	2.99%	3.21%	3.51%	4.32%

ECBの金融引締め継続が意識される一方で、FRBの金融引き締めに対する思惑は交錯が続いたものの、欧米では長期金利が総じて上昇する中、中国債券市場ではインフレ率の低下と国内景気への懸念や利下げ期待から利回りが小幅に低下する展開となった。米国では区々となった経済指標とFRB高官のタカ派発言により10年国債利回りが3.51%（前週比+12bp）に上昇しており、10年中国国債（2.83%、-2bp）に対する上回り幅は+68bp（同+14bp）へと再度拡大に転じている。

イールドカーブは、小幅に低下しているものの概ね変化はなかったが、私募ファンドに対する債券投資規制強化検討の報もあってクレジットスプレッドは拡大に転じているものの、依然調整の範囲内。

④先物為替市場

	USD / CNY
1M	-180.5 / -180.0
3M	-542.0 / -541.0
6M	-1028.0 / -1025.0
9M	-1426.0 / -1424.0
12M	-1725.0 / -1722.0

対ドル基準レートは6.8606と前週末比-232pipsのドル安元高、対円基準レートは5.1759と同-494pipsの円安元高と、市場でのドル安を受けた設定が続いた。中国国内市場では、米国の金融引締め政策の先行きを占うインフレ等の経済指標を見極めたいとの思惑や中国での利下げ期待等の材料が交錯する中、総じてドル安傾向が強く、元は金曜日には対ドルで3週間ぶりとなる6.84台まで上昇した。

先物は、元金利に大きな変化がない中、米金融政策に対する思惑による動きは見られたものの、1年が週を通じて-1700台で取引される様子見姿勢の強い動意のない状況が続いている。

⑤金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	2.26%		1.82%
6M	2.29%	2.48%	1.87%
9M	2.33%	2.52%	1.94%
1Y	2.36%	2.59%	1.82%
3Y	2.63%	2.93%	2.03%
5Y	2.83%	3.19%	
7Y	2.95%	3.34%	
10Y	3.07%	3.47%	

スワップ金利も、引き続き動意ない中でやや低下している。債券利回りとの金利差であるスワップスプレッドも概ね前週末と変わらない水準となっている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。